

景況2カ月ぶり悪化

帝国データ
8月調査

エネルギー価上昇 消費マインド直撃

帝国データバンクが5日に発表した8月の景気動向調査によると、企業の景況感を示す景気動向指数(景気DI)は、前月比3.3%減の44.9となり、2カ月ぶりに悪化しました。エネルギー価格の上昇が消費マインドを直撃しました。

「食品やガソリン、光熱費などの高騰で消費者の購買意欲がますます低下」(製造業時計・同部担当製造)するなか、お盆休みが集中する時期での台風上陸による人流・物流の停滞などもマイナス要因となりました。

業界別に見ると、サービス業(前月比0.9%減)が7カ月ぶりに悪化。台風や猛暑、天候不順により「旅館・ホテル」「娯楽サ

ービス」などが影響を受けました。製造業(同0.3%減)は、中国など海外経済の減速、生産・出荷量の減少などが響き2カ月ぶりに悪化しました。

規模別では大企業(同0.6%減)、中小企業(同0.3%減)が、ともに2カ月ぶりに悪化。大企業は不動産の景況感が悪化し、中小企業は人材派遣・紹介など「サービス」の10業種が下落しました。

地域別では、台風上陸が下押し要因となり中国(同1.0%減)、北海道(同0.8%減)などで悪化。中国では工場の操業停止、北海道では燃料価格の高騰も響きました。

今後の国内景気の見通しについて帝国データバンクは、インバウンドの拡大やエネルギー価格の上昇など

「好材料と悪材料が混在するなかで、おおむね横ばい傾向で推移する」とみてい

ます。